

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.2 February 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



2

CONTENTS

- ・ 巻頭言
お墓地（教祖の墓地）の意義
／井上 昭洋 1
- ・ 文脈で読む「身上さとし」（17）
明治 22 年 5 月～6 月
／深谷 耕治 2
- ・ 英語文献にみる天理教（8）
D.C. グリーンの『Tenrikyō』（4）
／尾上 貴行 3
- ・ 音のちから—中国古代の人と音楽（24）
文物が語る音の世界—五絃琵琶—
／中 純子 4
- ・ ブラジルの宗教的風景（3）
ブラジルの宗教と移民③
／中西 光一 5
- ・ 2024 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』
に学ぶ（10）
第 5 講：85「子供には重荷」
／森 洋明 6
- ・ おやさと研究所ニュース 7
第 373 回研究報告会（12 月 20 日）
／2024 年度公開教学講座のご案内／
2024 年度おやさと研究所 特別講座
「教学と現代」／2025 年度公開教学
講座のご案内

巻頭言

お墓地（教祖の墓地）の意義

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

朝、修養科生の一団が北大路の歩道を東
に向かって歩いて行く姿を見かけることが
ある。同じ信者詰所から修養科の朝礼に向か
う集団で、数名がぱらぱらと緩く固まって修
養科に向かっている。昔は一団の人数も多く、
2 列に列を作って歩いていたように思う。私
も 1 度目の修養科の時に、ある教会の信者詰
所から、先頭に修養科の組係、続いて年配者、
後方に若者といった順番で、小学生の登校よ
ろしく列を作ってその歩道を歩いて修養科
の朝礼に向かっていた。今は、北大路ルート
で修養科に向かう集団の規模も小さくなり、
その数も少なくなったようだ。

列を作って修養科に向かう彼らをまだ数
多く見かけていた頃、少し目に留まる光景が
あった。北大路の歩道を歩く修養科生が、左
手に畑や田んぼが見え、その向こうに豊田山
を眺められるところまで来ると、リーダーの
号令で立ち止まり、北を向いて豊田山のお墓
地（教祖の墓地）に向かって遙拝するので
ある。全ての修養科生の集団がそうするわけ
ではなかったが、遙拝する集団をちらほらと
見かけていたように思う。彼らの立っている
場所から教祖の墓地までは 700 メートルは
あるだろうか。一方、彼らの背後にある教祖
殿は 150 メートルも離れていまい。存命の
教祖にお尻を向けて豊田山の墓地を遙拝し
ていることになる。教祖の墓地を遠く拝する
修養科生の姿を見るにつけ、教祖が背後から
「私はこちらにいるで」と声を掛けているの
ではないかしらんと思ったりしたものだ。

教祖の墓地は、明治 20（1887）年当初、
中山家の菩提寺であった善福寺境内にあっ
た。しかし、それは一時的な埋葬で、明治
25 年 12 月に豊田山に新墓地が竣工する。
12 月 13 日に執行された改葬祭の参列者は
10 数万人であったという。それ以降、教祖
の墓地は参り所として多くの信者が足を運ぶ
場所になった。一方、教祖殿の歴史を紐解い
てみると、教祖 10 年祭を翌年に控えた明治

28 年 11 月 14 日に教祖殿普請を押しして願っ
たところ、「仮家」なら良いというお許しが
出て、12 月 2 日に教祖殿仮殿が建てられた。
これはおそらくご休息所を改装して設えたも
のと思われる。当時は、教堂の中に神殿（神
床と甘露台）と祖霊殿（旧・北の上段の間）
があり、祖霊殿の裏に隣接して教祖殿（旧・
ご休息所）があった。当時の図面を見ると教
祖殿には上段は設置されていないようなの
で、教祖の住居としての性格が強かったのだ
はなからうか。その代わり、教祖の墓地が参
り所として機能していたと考えられる。

教祖殿が別棟として建つのは大正普請の
時である。大正 3 年 4 月に教祖殿（現在の
祖霊殿の建物）が落成し、神殿北礼拝場と
廊下で繋げられた（廊下の途中に神饌所と
祖霊殿があった）。図面を見ると教祖殿の隣
にご休息所が設けられているので、教祖の
お出まし・お下がりにはあったのかもしれない。
その後、昭和 8 年 10 月に現在の教祖殿
が落成し（昭和普請）、お給仕、お風呂、お
化粧など、教祖へのお仕えが始まった。

大正、昭和の普請を経て、教祖殿は教祖の
住居としてだけでなく、参り所としても充分
に機能するようになった。だが、その後もお
墓地に参る信者が多かったのはなぜだろう。
かつては、教祖の墓地に参るだけでなく、墓
前で十二下りのおどりをする人もいた。昭和
の末、教祖 100 年祭頃までは、教祖の墓
地は参り所としての吸引力があったのだ。墓
地とは本来、故人を偲び、一族の紐帯を確認
する場所である。教祖の墓地もこの墓地信仰
の慣習の中で捉えられていたとすれば、教祖
殿に存命の教祖がいらっしゃると分かっ
ても、信者の足は自ずとお墓地にも向かった
のだろう。しかし、この 20 数年来、教祖の
墓地を参る人は減っているように思う。日本
人の墓地信仰が衰退してきていることを考え
ると、参り所としてのお墓地の意義、その力
学に変化が起きているのかもしれない。